

息には透介の友人・舟越保武の作品が展示してある。↓



ペテラントライバーのフルタチさん



←ロシア展やってた。

学芸員のカトウさん (39歳)



遠くに岩手山、眼下に犀川。

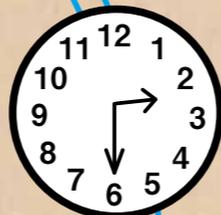
瑞影スポットにちゃんといん千が。親の街だわー。



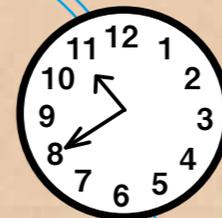
←ポーズがプロっぽい。



↑左から、ススムさん、テイルコさん、ヒココさん、コクニさん



で、いざ岩手県立美術館へ。タクシーの中で「東京から、松本竣介の絵を観にきました」と話すも、運転手さんはハテナ顔。「絵は分からんけど、今日の岩手山は綺麗だよ」と教えてくれた。ありがたい、この道三〇年のフルタチさん。十三時、松本竣介の展示室へ。本のタイトルから、「青い絵」ばかりなのかと思っていたけど、赤や茶色やいろんな色の絵があった。学芸員のカトウさんは、「竣介はチャレンジ精神旺盛で、あらゆる画法を試していたようです」と説明してくれた。竣介の絵を観るのは初めてだったけど、うん、好きかも。十四時三十分。カトウさんにお礼を言って外に出ると、庭清掃のおじちゃん、おばちゃんに話しかけられた。「岩手山の温泉に寄ったらええよ。あそこは疲れとれるよ。でも日帰りだったら、最終に間に合わ※#ん? \$%¥☆&!」本気方言が飛び交い、最後の方はあんまり聞き取れない。十五時三十分。循環バス「でんでんむし」に乗って、市内観光。最初に向かったのは、宮沢賢治ゆかりの商店街、いーはとーぶアベ



盛岡駅構内を探索。トイレまで銀河鉄道っぽくなるのは。



↑雨風ささく寝坊……。アエラも「林檎」です。



じゃじゃして〜!



この本を編集長から渡されたのがはじまりでした……。



編集長企画

思いついたが吉日

第1回 「ちょっと盛岡に行って松本竣介を見てきてくれる？」

予定していた企画がボツリ、新しい企画を考えていたヘンシユウチヨウが、深夜にふと思立った。「松本竣介に会いにいこう」

六月某日、渋谷のカフェ。ヘンシユウチヨウから、突然一冊の本を手渡された。「岩手の県立美術館に彼の絵があるから、この本を読んで、絵を観てきてよ。四ページで体裁自由ね」
こうして『青い絵具の匂い 松本竣介と私』とワタシ、の旅がはじまったのだ。***
取材当日、朝七時五十分。東北新幹線「はやて」五号に乗り込んだ。車中で例の本を読み始める。途中、椎名林檎のインタビューをつまみ読みし、ZZZ……。十時四十分。盛岡駅に到着。何せ盛岡は初めてで、下調べをするヨユウもなくて、完全に丸腰。とりあえず駅構内を散策。いわて銀河鉄道とは、さすが宮沢賢治の街だ。駅のトイレも銀河仕様？
十一時三十分。駅前の「HOT Jaja」で、少し早いランチ。盛岡三大麺の一つ、「じゃじゃ麺」を食す。
正午。お腹が満たされたところ